

# 「第2期川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画」の総括評価結果の概要について

## 1 第2期推進計画について

### (1) 計画について

○ウェルフェアイノベーションの推進を図るため、「ウェルフェアイノベーション推進計画」を策定し、総合計画の分野別計画の一つに位置付け

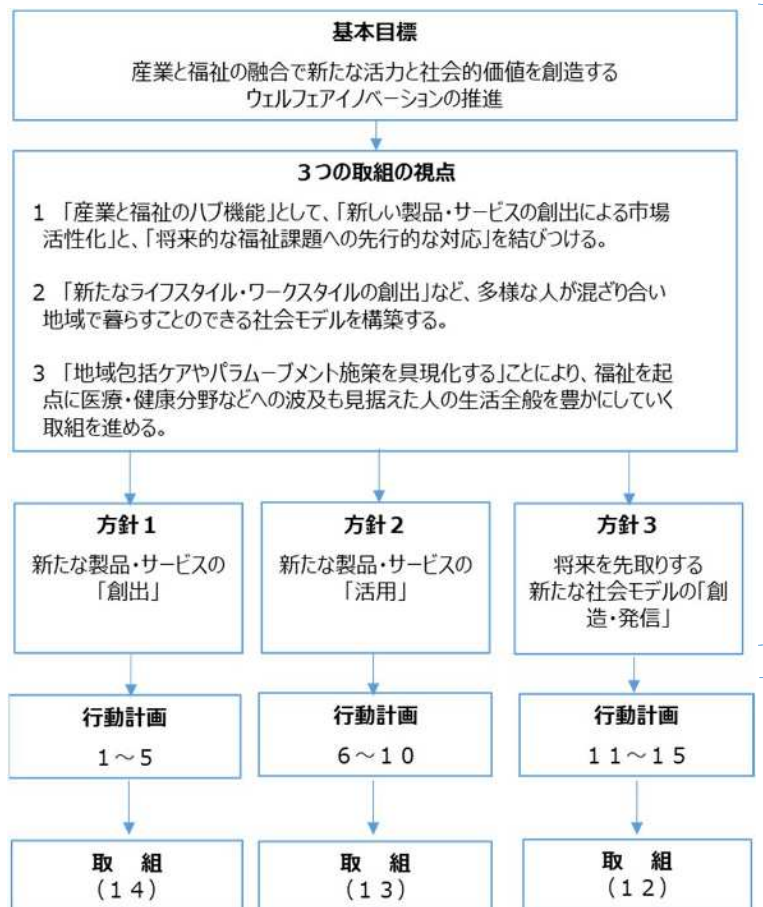
第1期：H26からH28の3年間

第2期：本体は(基本目標・視点・方針)総合計画と連動し、H29から概ね10年  
行動計画部分の計画期間はH29からR3の5年間

○第2期推進計画は、行動計画の計画期間が3年を経過する際に中間評価をすることとしており、令和2年度に中間評価を実施し、計画中のすべての行動計画を「B：一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)」ものとして評価(令和2年11月ホームページ上にて公表)

○令和4年3月末をもって第2期ウェルフェアイノベーション推進計画の計画期間が終了することに伴い、本計画の総括を行うもの

### (2) 第2期計画の構成について



概ね10年

5年

## 2 行動計画及び取組の評価結果について

行動計画	評価
1 データプラットフォームの構築(データ活用による参入促進)	B
2 アクションプラットフォームの構築(KIS理念に沿った共創型プロジェクト)	B
3 専門コーディネータ等によるKIS理念に沿ったプロジェクトへの支援	B
4 KIS理念に沿ったプロジェクトへの開発費補助等の支援	B
5 最新技術等のシーズの活用を見据えた国、NEDO、大学等との連携	B
6 かわさき基準(KIS)認証による良質な製品の普及推進	B
7 在宅での製品・サービスの導入促進	B
8 施設での製品・サービスの導入促進	B
9 KIS理念に沿った製品の導入・普及補助等の支援	B
10 介護事業者への介護ロボットの重点的な導入コーディネート	B
11 新たな「住まい」モデルの構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信	B
12 円滑な「移動」環境構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信	B
13 「健康寿命延伸」に向けた製品・サービス活用による価値の発信	B
14 新たな「ワークスタイル」構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信	B
15 ウェルフェアイノベーション川崎モデルの海外への展開の推進	B

※行動計画評価区分

A：目標を上回って達成した B：目標を達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

<行動計画の進捗状況区分内訳>

行動計画の進捗状況区分	行動計画
A 目標を上回って達成した	0
B 目標を達成した	15
C 目標を下回った	0
D 目標を大きく下回った	0
合計	15

<取組の達成状況区分内訳>

取組の達成状況区分	取組
1 目標を大きく上回って達成	0
2 目標を上回って達成	0
3 ほぼ目標どおり	36
4 目標を下回った	3
5 目標を大きく下回った	0
合計	39

## 3 評価結果を踏まえた総括

- 「第2期川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画」について、計画の最終年となる令和3年度に評価を行った結果、15件の全ての行動計画が「B：目標を達成した」であり、39件の取組のうち36件(92.3%)が「3 ほぼ目標どおり」、3件が「4 目標を下回った」(7.7%)でした。
- 目標を下回った取組は、「(行動計画4取組①)福祉製品・サービス開発支援補助」、「(行動計画13取組②)精神的・社会的な健康状態につながるヘルスケア産業の情報の集積」、「行動計画14取組②子育てや介護を行う状況にある方の働き方のモデル構築に向けた取組実施」でした。
  - ・行動計画4取組①については、開発支援補助金について、申請件数が少なかったため、目標の年間5件に達しませんが、ウェルテックを開設し、東京工業大学及び産業技術総合研究所と連携しながら、市内企業等に対し、技術的助言を行うなど、企業への支援体制を強化したことから、行動計画の目標は達成できました。
  - ・行動計画13取組②については、目標の「精神疾患のある方へ、健康状態につながる民間企業等のヘルスケア産業の情報を集積すること」には達しませんでした。健康寿命延伸に向けた有効な製品・サービスの情報を集積し、情報発信したことから、行動計画の目標は達成できました。
  - ・行動計画14取組②については、子育てや介護を行う方の働き方のモデル構築という目標は達しませんでした。おそうじ車いすを活用した障害者の新たな就労モデルを情報発信したことなどから、行動計画の目標は達成することができました。
- 一部目標を下回った取組がありますが、92.3%の取組が目標を達成していること、かつ、全ての行動計画が目標を達成していることから、第2期ウェルフェアイノベーション推進計画全体としても、概ね目標を達成できたと考えます。

## 4 今後の方向性

- 第2期ウェルフェアイノベーション推進計画の目標を概ね達成できましたが、より本市のウェルフェアイノベーションを進めるためには、市内企業の福祉産業への参入促進を図る必要があります。そのため、「Kawasaki Welfare Technology Lab」(ウェルテック)を核として、市内中小・ベンチャー企業等を支援し、優れた福祉製品・サービスの創出を目指します。また、「かわさき基準(KIS)」についても、ウェルテックでの科学的知見に基づく評価をするなど、「KIS」の付加価値をさらに高め、市内福祉産業振興の強化を図ります。

## 第2期川崎市ウェルフェアイノベーション推進計画総括評価結果

### 方針1 新たな製品・サービスの「創出」

#### 行動計画1 データプラットフォームの構築(データ活用による参入促進)

概要		評価		達成状況	選択区分の説明
<p>将来的な福祉課題について、データを読み取ることでその変化に気付き、実態に即した製品・サービス開発を進めることが必要となっています。具体的にどのような部分で産業の力が活かせるのか、共有しやすいサイズでの具体課題について、データを見える化し、共有することにより、多様な主体による対話を有意義なものにし、参入を促進する環境を構築します。</p>		<p>福祉製品・サービスや福祉課題に関する意識調査のデータをとりまとめ、ホームページ上で公開するとともに、ICTデータ活用セミナー等を開催するなど、福祉産業への参入を促進する環境を構築しました。</p>		B	<p>【達成状況】の選択区分                      A. 目標を上回って達成した                      B. 目標を達成した                      C. 目標を下回った                      D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
1-①	行政データのオープンデータ化の推進	福祉側での課題や業界の状況を示す各種実態調査等を二次加工可能な方式でホームページ上に掲載します。	○福祉施設を対象とした福祉製品・サービスや福祉課題に関する意識調査を実施（令和2年度、令和3年度）し、結果をオープンデータとしてホームページ上で公開するとともに、福祉製品やサービスに関する意識調査や社会福祉統計データ等を二次加工可能な方式でホームページ上に掲載しました。	3	<p>【達成状況】の選択区分                      1. 目標を大きく上回って達成                      2. 目標を上回って達成                      3. ほぼ目標どおり                      4. 目標を下回った                      5. 目標を大きく下回った</p>
1-②	他機関調査や市民ニーズなどの福祉課題のデータの見える化	本市以外の他機関での調査結果や市民のニーズや生活実態などの収集により、福祉課題の共有しやすいサイズでのデータの見える化を進めていきます。	○ホームページ上に厚生労働省や、テクノエイド協会、製品評価技術基盤機構、他都市の取組とともに、福祉課題に関する情報を掲載しました。	3	
1-③	データ活用による参入促進セミナーの実施	「データ」を収集して「情報」化し、その情報から行動変容を起こす「価値」を創造し、ビジネス化していくプロセスを作り出すセミナーを開催します。	○ビジネス化につなぐ福祉産業参入促進のためのICTデータ活用セミナーを開催（令和元年度、令和2年度、令和3年度各1回）しました。	3	

行動計画2 アクションプラットフォームの構築(KIS理念に沿った共創型プロジェクト)

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>超高齢社会において、社会課題の解決に企業が参加していく流れが今後ますます強くなっていく中で、製品・サービス開発の過程で当事者視線を取り入れた、的確な課題設定のもとにプロジェクトを進める環境を構築していくことが必要となっています。こうした背景から、将来的な福祉課題と企業力をマッチングしつつ、企業・市民・福祉事業者・NPO・大学・金融機関など、多様な主体との関係をコーディネートしながら課題解決に結びつけるプロジェクトを増やし、さらに新たなプロジェクトが創出する好循環をつくりだしていきます。</p>			<p>年間約20件から30件のプロジェクトについて、企業と企業や、企業と福祉施設とをマッチングさせることで、新たな福祉製品・サービスの創出や活用につなげることができました。また、令和3年8月に、「Kawasaki Welfare Technology Lab(通称ウエルテック)」を開設し、東京工業大学及び産業技術総合研究所等と連携して、福祉製品・サービスの開発改良を行う市内企業等を支援する環境を構築しました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
2-①	多様な主体の参加による「アイデア創出プログラム」の実施	多様な主体の参加により、客観的なデータやフィールドワーク調査結果での情報から、課題に対する視点や方向性を発見し、周辺領域を含めて観察を繰り返しながら視点を育成し、共有しやすいサイズでの具体的なプロジェクト化につなげていきます。	○約360の企業・福祉事業者・大学・研究機関など様々な主体で構成された「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」の参画企業等と連携し、福祉課題解決に結びつけるプロジェクトを実施しました。 (平成29年度) 21件 (平成30年度) 23件 (令和元年度) 26件 (令和2年度) 28件 (令和3年度) 31件(見込)	3	
2-②	多様な主体の参加による「共創型プロジェクトチーム」づくり	多様な主体の参加により、「住まい」「移動」「健康寿命延伸」などのライフスタイルやワークスタイルをテーマにプロジェクト化で実現する「価値」を明確化します。 この価値の実現に向け、かわさき基準(KIS)理念に沿って、仮設・検証・判断の循環によるブラッシュアップを繰り返し、年間10件以上の共創型プロジェクトを創出します。	○かわさき基準の理念に沿って、「かわさきウェルフェアイノベーションフォーラム」の参画団体である企業と企業や企業と福祉施設など、共創型のプロジェクトを創出しました。 (平成29年度) 13件 (平成30年度) 13件 (令和元年度) 15件 (令和2年度) 17件 (令和3年度) 20件(見込)	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
2-③	福祉製品開発の拠点づくり	製品づくりにおけるアイデア創出、簡易プロトタイプングによるユーザビリティと検証ができる場を目指し、併設する地域リハビリテーションセンターや高齢者・障害者施設、研修センター機能との相乗効果を図るための具体的な連携を見据え、設備・機能連携等の準備・検討を行います。	○優れた福祉製品やサービスの創出に向けて、市内企業等を支援する施設の機能について検討を重ね、令和3年8月に、川崎市複合福祉センター「ふくふく」内に「Kawasaki Welfare Technology Lab(通称ウエルテック)」を開設しました。ウエルテックは、本市、東京工業大学及び産業技術総合研究所が一体となって運営し、複合福祉センターという立地を活かして、同建物内の総合リハビリテーション推進センターや高齢者・障害者施設などとの連携を通じ、高齢者や障害者、介護者等の真のニーズに合った福祉製品やサービスの創出を目指して企業支援を行っています。	3	

行動計画3 専門コーディネータ等によるKIS理念に沿ったプロジェクトへの支援

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>新たな製品・サービスの創出を支えるために、創出過程で生じる様々な課題を解消するための相談環境として、「リハビリテーション工学」、「マーケティング」、「企業間ネットワークの情報」、「実証フィールドの提供」など、専門コーディネータや関係機関との連携によるプロジェクト支援環境を整備します。</p>			<p>ウエルテックを開設・運営開始し、東京工業大学や産業技術総合研究所のほか、福祉製品等に関する専門のコーディネーターなどの知見に基づき、技術的助言を行うなど、新たな製品・サービスの創出を支援する環境の整備を行いました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
3-①	ウエルフェアイノベーションサポートデスクの開設	ウエルフェアイノベーションの取組に対するワンストップ窓口として、本市にサポートデスクとして相談機能を明確化し、必要に応じて企業・福祉事業者とのチーム作りをサポートするほか、関係機関や専門コーディネータの派遣を調整します。	<p>○経済労働局イノベーション推進室を窓口とし、企業などからの相談対応を行い、製品・サービスの創出に向け、企業・福祉事業者とのチームづくりの支援を行うとともに、必要に応じて専門コーディネータの派遣を行いました。</p> <p>○令和3年8月に「ウエルテック」を開設し、東京工業大学及び産業技術総合研究所と連携しながら、企業や福祉事業者からの相談対応を行いました。</p>	3	
3-②	専門的な知見を持つコーディネータによる支援	製品に関する専門的知見を有するエンジニアや、マーケティング支援を行うコーディネータによる、KIS理念に沿った製品・サービスの創出に向けた支援を行います。	<p>○盲導犬ハーネスの製品化プロジェクトにおいて、ハーネスに関して専門的知識を有するコーディネータを派遣し、技術的助言を行い、市内企業の製品化を支援したほか、技術力を有するものの経営・販売に苦慮している事業者に対し、中小企業診断士等の専門家を派遣し、経営・販売戦略を助言するなど、KIS理念に沿った製品の創出に向けた支援を行いました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
3-③	デザイン活用による製品・サービスの魅力向上支援	新規に創出する製品や既存のKIS認証製品等を含め、プロジェクト始動当初から工業デザイン面からの魅力向上に向けた支援の検討を行い、プロジェクトを進めます。	<p>○KIS認証製品等について、女子美術大学と連携し、デザイン面による魅力向上のプロジェクトを実施するなどの企業支援を実施しました。</p>	3	

行動計画4 KIS理念に沿ったプロジェクトへの開発費補助等の支援

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>福祉関連の製品は、一般的に個々の利用者の特性に合わせた量産化が難しい製品となるところも多く、市場リスク・開発リスクが大きいため、新たな製品・サービスの創出を支えるために、開発費助成に関する情報の整備や具体的に経費の一部助成を行うことにより、プロジェクトを安定的に稼働させ取組を加速化します。</p>		<p>福祉製品等開発支援補助金については、申請件数が減少しましたが、ウェルテックを開設し、東京工業大学と産業技術総合研究所と連携しながら、市内企業等に対し、科学的知見に基づく技術的助言を行うなど、企業支援体制を強化することで、プロジェクトを安定的に稼働させました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分                      A. 目標を上回って達成した                      B. 目標を達成した                      C. 目標を下回った                      D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	選択区分の説明	
4-①	福祉製品・サービス開発支援補助	福祉課題を具体的に解決し、KIS理念に沿った製品・サービスの研究開発に対して年間5件程度の補助を行います。	<p>○福祉製品等開発支援補助について、次のとおり実施しました。                      (平成29年度) 申請：7件、採択：3件(1件は中止)、補助執行：2件(1件は中止)                      (平成30年度) 申請：5件、採択：1件、補助執行：1件                      (令和元年度) 申請：2件、採択：2件、補助執行：1件(1件は中止)                      (令和2年度) 申請：3件、採択：1件、補助執行：1件                      (令和3年度) 申請：2件、採択：2件、補助執行：2件(見込)</p>	4	<p>【達成状況】の選択区分                      1. 目標を大きく上回って達成                      2. 目標を上回って達成                      3. ほぼ目標どおり                      4. 目標を下回った                      5. 目標を大きく下回った</p>
4-②	福祉製品開発資金融資	KIS理念に沿った福祉製品等の開発及び改良を行う製造業等の方に対する融資を行います。	<p>○本市の中小企業融資制度である小口零細対応小規模事業資金制度を周知し、事業者へ同制度を活用した福祉製品の開発を支援しました。</p>	3	
4-③	開発費助成メニューの総合的な情報提供	製品・サービスを開発する企業への経済的支援の情報を総合的に提供することを目的に、本市及び本市以外の制度を含めた情報提供の仕組みを整備します。	<p>○本市の補助事業について、市政だよりや産業情報かわさきのほか、ウェルフェアイノベーションフォーラムのメールマガジンや同様の開発費補助を行っているNEDOの説明会等で周知するなど、幅広く広報しました。また、本市以外の補助金についても、本市のホームページにリンクを貼るなど、情報提供する仕組みを整備しました。</p>	3	

行動計画5 最新技術等のシーズの活用を見据えた国・NEDO・大学等との連携

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>これまでにはない最新技術の活用を視野に入れることによって、新たな製品・サービスを創出する際に目指す価値を実現する可能性が広がります。最新技術の活用を新たな製品・サービス創出の一つの視点として取り入れながら、各関係機関が持つ企業の情報を重ね合わせることで、新たな製品・サービスの創出を支援する土壌を構築していきます。</p>			<p>ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術を活用した新たな製品開発につなげるため、セミナーやワークショップ、フォーラムを開催するなど、企業間や企業と福祉事業者等との連携を図る取組を実施するとともに、ウェルテックを開設・運営することで、新たな製品・サービスの創出を支援する環境を構築しました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分                      A. 目標を上回って達成した                      B. 目標を達成した                      C. 目標を下回った                      D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
5-①	ロボット、人工知能、ICT等の開発段階での活用	<p>ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術を活用したビジネス創出支援セミナーを実施します。セミナー参加企業の中で関心のある企業・福祉事業者等によるアイデア創出プログラムから共創型プロジェクトチームづくりへとつなげていきます。</p>	<p>○ロボット、人工知能、ICTなどの最新技術を搭載した製品創出に向けたセミナーやワークショップを開催するとともに、福祉産業分野だけでなく、その他の異業種の企業を呼び込み、マッチング会を開催するなど、共創型でより優れた製品が生み出されるよう取組を実施しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分                      1. 目標を大きく上回って達成                      2. 目標を上回って達成                      3. ほぼ目標どおり                      4. 目標を下回った                      5. 目標を大きく下回った</p>
5-②	製品・サービス開発に関する関係機関との連携強化	<p>国、NEDO、大学、川崎市産業振興財団、金融機関等との連携や、本市臨海部で進めるライフイノベーションとの連携により、各関係機関が持つ情報を共有し、シーズとニーズをつなぐ取組を着実に進めます。将来的な福祉課題に対応する市内での製品・サービス創出を支援する土壌を構築し、市場活性化の動きを作り出します。</p>	<p>○国、NEDO、東京工業大学、産業技術総合研究所、国立リハビリテーションセンター、川崎市産業振興財団等と連携し、製品・サービスの開発促進による産業振興の強化に向けた取組となるよう、協議・検討を進め、令和3年8月にウェルテックを開設いたしました。</p>	3	

## 方針2 新たな製品・サービスの「活用」

### 行動計画6 かわさき基準(KIS)認証による良質な製品の普及推進

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>多種多様な製品が市場に流通する中で、これまで、本市独自に福祉製品のあり方を「かわさき基準」として位置付け、当事者によるモニター評価や有識者等の意見を取り入れて製品認証を行ってきました。この実績を継続し、当事者目線での活用により生み出される、新たなライフスタイル・ワークスタイルなどの具体的な新しい価値を、製品の認証と普及促進を通じて蓄積していきます。</p>		<p>平成29年度から令和3年度の5年間に於いて、かわさき基準認証福祉製品として、79製品を認証し、かわさき基準プレミアム認証福祉製品として、6製品を認証するとともに、それらの普及啓発を行い、実際に利用していただくことで、高齢者や障害者等のQOLの向上を図りました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
6-①	かわさき基準認証事業	<p>当事者視点による自立支援を中心概念とし、社会環境の変化等に対応しながら地域包括ケアやダイバーシティの推進に具体的に寄与するなど福祉課題に具体的に対応する製品の認証を実施します。</p>	<p>○かわさき基準認証福祉製品及びかわさき基準プレミアム認証福祉製品として、次のとおり認証しました。                      (平成29年度) 「かわさき基準 応募：30製品、認証：16製品」、「プレミアム 応募：11製品、認証：2製品」                      (平成30年度) 「かわさき基準 応募：29製品、認証：13製品」、「プレミアム 応募：10製品、認証：2製品」                      (令和元年度) 「かわさき基準 応募：49製品、認証：23製品」、「プレミアム 応募：10製品、認証：2製品」                      (令和2年度) 「かわさき基準 応募：30製品、認証：20製品」                      (令和3年度) 「かわさき基準 応募：9製品、認証：7製品」</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
6-②	かわさき基準認証製品による新たな価値等の蓄積	<p>当事者モニター評価による認証行為の強みを活かし、多くの人が集まる場における製品の活用を通じて、「新たなライフスタイル・ワークスタイル」などの具体的な新しい価値を蓄積していきます。</p>	<p>○かわさき基準におけるモニター評価を行い、「モノ」の活用から生活の質の向上が促進されるといった「コト」を生み出す製品を「かわさき基準プレミアム認証福祉製品」として認証する取組を創設し、平成29年度から令和元年度の3年間で計6製品を認証しました。                      また、「かわさき基準プレミアム認証福祉製品」である「お掃除車いす」を活用した下肢障害者の就労拡大に向けたプロジェクトを実施し、新たなライフスタイル・ワークスタイルを情報発信しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
6-③	かわさき基準認証製品の市場拡大に向けた支援	<p>製品の流動性を高めるため、高齢者や障害児・者福祉関係の制度対象になる可能性がある製品については適用を促し、契約制度でも支援の枠組みを継続します。各制度内容を一元的に案内できるよう情報提供の仕組みを整備します。</p>	<p>○地方自治法施行令第167条の2第1項第4号に基づき、本市が随意契約できる製品として、かわさき基準(KIS)認証福祉製品を継続しました。                      ○かわさき基準認証製品パンフレットで全製品を掲載しアピールするとともに、新たに、介護保険制度が利用可能な製品であることが分かるよう、「介護保険適用製品」と記載し、情報提供しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>

行動計画7 在宅での製品・サービスの導入促進

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>在宅生活の場において、新たな製品やサービスを導入することによって、これまでできないと思われていたことをできるようになることは、新たな在宅ケアモデルを構築し、人の生活全般を豊かにしていく上で大切なことです。製品やサービスに触れ活用していく機会を増やしていくことで生み出される新たな価値を蓄積していきます。</p>		<p>かわさき基準認証福祉製品について、福祉施設だけではなく、個人の方々にも普及啓発し、ご自宅で利用していただくことで、利用者の自立支援や介護者の負担軽減につながるなど、在宅ケアモデルの構築に向けた取組を進めました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の実績	達成状況	選択区分の説明
7-①	生活支援機器モニター事業の実施	生活支援を行うロボットなどの製品の購入やリースを考えている方に、安心してロボットなどの製品を購入いただけるよう一定期間製品の利用を試していただく「生活支援機器モニター事業」を実施します。その結果生み出される新たな価値を発信し、さらなる新たな価値の創造の循環をつくりだします。	<p>○かわさき基準認証福祉製品の高齢者向け製品である排尿予知センサーを排尿障害のある児童4名に一定期間試していただくモニター事業を実施し、高齢者向けの製品が児童にも活用可能となる新たな価値を創出しました。 また、かわさき基準認証福祉製品の難聴者向けの対話支援機器を導入した薬局における活用事例を取りまとめ、全国的な福祉製品の展示会で発表し、福祉施設以外での活用事例として、製品の新たな価値を発信しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
7-②	生活支援を行う事業所と連携した新たな在宅ケアモデルの構築	高齢者や障害児・者の生活支援を行う事業所に対して、かわさき基準認証製品やウェルフェアイノベーションでのプロジェクトの情報提供を行い、新たな在宅ケアモデルの構築に向けた取組を進めます。	<p>○国立リハビリテーションセンターと連携し、3Dプリンタを活用して自助具などを製作するプロジェクトを実施し、障害者の特性に合った製品づくりを行いました。 ○コロナ禍において、外出が制限されて体力が落ちた高齢者等向けに、かわさき基準認証福祉製品の機能訓練ツールを活用し、オンラインにて自宅で運動不足解消ができるプロジェクトを実施し、新たな在宅ケアモデルの構築に向けた取組を進めました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>



行動計画8 施設での製品・サービスの導入促進

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>施設支援の場において、新たな製品やサービスを導入することによって、ケア技術の向上を図るとともに介護者・介助者負担の軽減を図ることは、施設を利用する方々の生活の質の向上や、介護者・介助者の職場でのやりがいの向上にもつながっていきます。介護人材の確保等が課題となっている現状において、施設支援の中で製品やサービスに触れ活用していく機会を増やしていくことで、活用することで生み出される新たな価値を蓄積し、施設内での支援の充実につなげていきます。</p>			<p>介護支援機器活用促進セミナーを毎年開催し、福祉施設等の関係者向けに、福祉製品の的確な選び方・使い方等の情報提供を行いました。また、福祉製品の出張PRや施設内支援モニター事業を実施し、製品のPRや一定期間製品・サービスを施設関係者に試していただくことで、新たな製品・サービスの活用機会を提供しました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
8-①	施設向け福祉介護機器活用促進セミナーの実施	高齢者施設や障害児・者福祉施設向けに福祉介護機器の的確な選び方や使い方、最新情報を伝えるセミナーを開催します。	○福祉施設等関係者向けに介護支援機器導入セミナーを平成29年度から令和3年度まで毎年開催（年1回）し、福祉製品・サービスを活用することで、業務の効率化や介護負担軽減等につながることを情報提供するなど、福祉施設等での製品導入の促進を図りました。	3	
8-②	福祉施設等への出張キャラバン事業の実施	高齢者施設や障害児・者福祉施設、医療機関等に対して、かわさき基準認証製品やウエルフェアイノベーションでのプロジェクトにより創出された製品・サービスの情報提供を行い、介護者・介助者負担の軽減につながる新しい施設支援モデルの構築に向けた取組を進めます。その結果、生み出される新たな価値を発信し、さらなる新たな価値を創造していく好循環をつくりだします。	○福祉施設等への出張PRを平成29年度から令和3年度まで毎年（各年5回程度）実施しました。また、介護者の負担軽減につながる新しい施設支援モデルの構築に向けて、福祉製品等の活用効果を施設職員の声としてインタビューし、「かわさき基準認証福祉製品」のパンフレットにその内容を掲載し、市内福祉施設に配布しました。	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
8-③	施設内支援機器モニター事業の実施	施設支援において利用を想定する新たな製品・サービスについて、一定期間利用を試していただく「施設内支援モニター事業」を実施します。	○福祉製品・サービスを製造・販売する企業と新たな福祉製品・サービスを試したい福祉施設等とを調整し、マッチングさせることで、新たな製品・サービスの活用機会を提供しました。	3	

行動計画9 KIS理念に沿った製品の導入・普及補助等の実施

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>新たな製品・サービスの導入・普及を図り、活用することにより生み出される新たな価値を蓄積し、類似場面での活用の拡大を図っていくために、導入や普及に関する取組に対して経費の一部助成を行います。</p>		<p>かわさき基準認証福祉製品の導入補助事業を実施し、5年間で48件(見込)の補助を実施するなど、新たな優れた福祉製品・サービスの導入促進を図りました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の実績結果	達成状況	選択区分の説明
9-①	施設等への福祉製品導入促進補助事業	<p>地域包括ケアやダイバーシティの推進に寄与する、かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーションでのプロジェクトにおいて創出した製品に対して、施設等で導入する際の補助を実施します。</p>	<p>○次のとおり、かわさき基準認証福祉製品の導入を補助し、かわさき基準認証福祉製品の導入促進の支援を実施しました。 (平成29年度) 14件 (平成30年度) 9件 (令和元年度) 7件 (令和2年度) 8件 (令和3年度) 10件(見込)</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
9-②	製品開発企業等への福祉製品展示会等出展補助事業	<p>かわさき基準認証製品及びウェルフェアイノベーションでのプロジェクトにおいて創出した製品を開発・販売する企業等が出展する展示会への補助を実施し、導入支援を行うとともに、本市のウェルフェアイノベーション施策のアピールを行います。</p>	<p>○展示会への出展補助を平成29年度2件、平成30年度2件、令和元年度3件実施しました。 ○令和2年度は、申請が2件ありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により展示会が中止になったため、補助は実施していません。なお、出展補助事業については、「川崎市がんばるものづくり企業応援補助金」と補助対象者・補助対象経費等、重複する部分が多いことから、令和3年度より廃止しました。</p>	3	
9-③	導入促進補助等支援メニューの総合的な情報提供	<p>製品の購入や出展補助に関する情報を総合的に提供することを目的に、本市及び本市以外の制度を含めた情報提供の仕組みを整備します。</p>	<p>○福祉製品の導入補助や出展補助について、市政だよりや本市のホームページに掲載するとともに、様々な会議で説明したほか、ウェルフェアイノベーションフォーラムのメールマガジン(配信先:約1,800件、発信回数 平成29年度:17件、平成30年度:16件、令和元年度16件、令和2年度9件、令和3年度10件(見込))にて情報提供しました。</p>	3	

行動計画10 介護事業者への介護ロボットの重点的な導入コーディネート

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>2018(平成30)年度の介護報酬の改定に向けて、介護ロボットの活用を含めた制度改正に向けた議論が進められています。こうした背景のもと、国における「ロボット新戦略」の分野別事項の一つに位置付けられている介護・医療ロボットの中で、かわさき基準認証製品を中心に介護事業所の支援に効果的な介護ロボットの導入に向けたコーディネートを行います。</p>			<p>介護ロボットの普及促進に携わる人材を講師として、介護ロボットを体験できるセミナーを開催するとともに、福祉製品の開発事業者と福祉施設とをマッチングする機会を設け、福祉製品の導入促進に取り組みました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の実績	達成状況	選択区分の説明
10-①	介護ロボット導入セミナーの実施	<p>介護事業者が介護ロボットを導入するにあたって、その意味を共有し、購入する際のポイントを知り、具体的に介護ロボットを体験できるセミナーを開催します。</p>	<p>○介護ロボットの普及促進に携わる人材を講師として、介護ロボットを体験し、活用方法を学ぶセミナーを開催しました(平成30年度～令和3年度各1回)。なお、令和3年度と4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、介護ロボットの体験会の開催はできませんでしたが、オンラインによる製品の活用事例の紹介等を実施しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
10-②	介護事業所への介護ロボット導入コーディネート	<p>2018(平成30)年度の介護報酬改定時に想定される介護ロボット導入に対する影響を見据え、介護事業所での支援の向上につながる機器を中心としたコーディネートを行い、介護者・介助者負担の軽減に向けたモデルの構築に向けた取組を進めます。</p>	<p>○排尿予知センサーやコミュニケーションロボット、移乗・移動リフトなどの介護ロボット等について、セミナーや出張PRなどを通して、福祉施設へのコーディネートを行い、製品の導入へとつなげました。また、介護アイデアソンを開催し、オンラインによる福祉製品の開発事業者と福祉施設とのマッチングを実施し、介護ロボットをはじめとした福祉製品等の導入促進を図りました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>

## 方針3 将来を先取りする新たな社会モデルの「創造・発信」

### 行動計画11 新たな「住まい」モデル構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>生活の基盤となる「住まい」の場において、様々な生活上の課題が生じたとしても、製品・サービスの活用によりハード面・ソフト面の両面からその課題を解消し、新たなライフスタイルを構築していく価値を広く社会に提案していきます。</p>		<p>コロナ禍における「新たな住まいモデル」の構築として、最新の福祉製品・サービスを活用し、高齢者や障害者等が安心して暮らすことができるような新たな製品・サービスを生み出すための取組を発信しました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
11-①	在宅ケアモデルの構築に向けた「新たな住まいモデル」の発信	<p>「製品・サービスの活用による新たなライフスタイル構築」をテーマに、ハード・ソフトの両面から在宅生活を支える製品を集積し、未来の住空間を体感できる企画の展開や製品の実証を通してそのモデルを広く発信します。</p>	<p>○音のバリアフリーの実現に向けて、かわさき基準認証福祉製品の対話支援機器を使った実証実験を市内福祉施設や住宅展示場などで展開し、新聞に掲載されるなど、情報発信を行いました。 ○口頭言語を文字言語化する機能を持ったかわさき基準認証福祉製品とスマートグラスを掛け合わせて聴覚に障害のある方もレンズに映った文字を通すことで、音声言語の情報を同時に取得できるサービスを、かわさき宙と緑の科学館のプラネタリウムで実証しました。 ○コロナ禍において、外出が制限されて体力が落ちた高齢者等向けに、かわさき基準認証福祉製品の機能訓練ツールを活用し、オンラインにて自宅で運動不足解消ができるプロジェクトを実施し、その結果を広く情報発信しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
11-②	住まいの基盤整備の着実な推進	<p>福祉のまちづくり条例等に基づくユニバーサルデザインの推進やバリアフリーに関する情報を発信します。高齢者向け住まいに関する総合相談窓口を運営し、介護保険制度による住宅改修、高齢者住宅改造費の助成・在宅重度障害者（児）やさしい住まい推進事業、障害児（者）日常生活用具給付等事業などの制度を推進することにより、住まいの基盤整備を着実に推進します。</p>	<p>○バリアフリー基本構想・推進構想の進捗管理とともに、バリアフリーマップの情報更新等を行いました。 ○「福祉のまちづくり条例」に基づく事前協議等における指導・助言等を実施しました（令和2年度196件、令和3年度210件（見込））。 ○高齢者・障害者団体等により構成される「バリアフリーまちづくり連絡調整会議」を開催しました。 ○「すまいの相談窓口」を川崎市住宅供給公社に設置し、高齢者・障害者等の住み替え等の相談対応を行いました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>

行動計画12 円滑な「移動」環境構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>生活の基盤となる住まいの場と外出して活動する場とをつなぐ「移動」の場面において、様々な障壁が生じたとしても、製品・サービスの活用によりその障壁を解消し、移動したくなる気持ちを生み出し新たなライフスタイルを構築していく価値を広く社会に提案していきます。</p>			<p>革新的な福祉製品・サービスを活用して、高齢者や障害者の社会進出、他者との交流を持つ機会を持って、人々が多様性を認め合い、安心して暮らすことができるまちづくりを行いました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和3年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
12-①	円滑な移動環境構築に向けた移動支援製品・サービスの発信	<p>かわさき基準認証製品や移動をサポートする最新製品・サービスを集積した未来の移動手段を体感できる企画を展開します。ユニバーサルデザインタクシーなど移動をサポートする製品・サービスの活用による観光資源の創出などかわさきパラムーブメント施策と連動して、アクティビティの活性化につながる取組を発信します。</p>	<p>○かわさき基準認証福祉製品の車椅子を活用して、障害者が健常者と混ざり合っ「かわさきハロウィンパレード」に参加するなど、かわさきパラムーブメントと連動した取組を行い、対外的に広くアピールしました。また、新型パーソナルモビリティとUDタクシーを掛け合わせた新たな交通サービスを展開し、歩行困難者が外出したくなる取組を行うなど、ダイバーシティのまちづくりを進めました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
12-②	移動環境の基盤整備の着実な推進	<p>ユニバーサルデザインタクシーやノンステップバスの導入の推進を着実に進めます。駅周辺地区のバリアフリー化の際に、かわさき基準認証製品の活用の検討を含めて、着実に進めます。高齢者や障害者の移動支援にかかる事業を着実に進めます。</p>	<p>○タクシー事業者等に対する補助金の交付により、ユニバーサルデザインタクシーの導入を促進するとともに、駅前広場や病院等におけるユニバーサルデザインタクシーに対応した乗場の整備に係る協議・調整を行いました（令和2年度末の導入率実績：14.3%）。 ○民間バス事業者のノンステップバスの導入率は80%を超え、市バスのバリアフリー対応車両は100%を達成しました。 ○ユニバーサルデザインタクシーとかわさき基準認証製品（電動車椅子）を組み合わせた取組など、高齢者や障害者の移動支援をテーマにした動画を作成し、新たなライフスタイルを広くPRしました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>

行動計画13 「健康寿命延伸」に向けた製品・サービス活用による価値の発信

概要		評価		達成状況	選択区分の説明
<p>平均寿命の延伸とともに、健康寿命の延伸が課題となっている中で、民間企業が主体となって、健康寿命延伸に向けたヘルスケア産業の取組が活発になっています。今後、ヘルスケア産業がますます拡大していくと見込まれる中で、健康な生活の継続に向けて有効な製品・サービスの情報を集積し、その効果を発信していきます。</p>		<p>健康寿命延伸に向け、有効な製品・サービスの情報を集積し、それらの製品等を活用することによる新たなライフスタイルについて、市民向けに情報発信しました。</p>		B	<p>【達成状況】の選択区分                      A. 目標を上回って達成した                      B. 目標を達成した                      C. 目標を下回った                      D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和2年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
13-①	健康寿命延伸に向けたヘルスケア産業の情報の集積	健康寿命延伸に向けた、様々な民間企業等のヘルスケア産業の取組の情報を集積します。	<p>○経済産業省が所管する「地域版次世代ヘルスケア産業協議会」及び「健康寿命延伸産業創出推進事業」に参画し、健康寿命延伸に向けた、様々な民間企業等のヘルスケア産業を収集するとともに、ヘルスケアサービスガイドラインに関する検討会の委員として参加し、「ヘルスケアサービスガイドライン等のあり方」を策定しました。                      ○異業種間連携の新たな製品・サービスの創出のためのアイディアソンを開催し、民間企業の様々なヘルスケア産業に関する取組の情報を収集しました。</p>	3	
13-②	精神的・社会的な健康状態につながるヘルスケア産業の情報の集積	精神疾患のある方やひきこもり状態にある方などへ、健康な状態につながる民間企業等のヘルスケア産業の取組の情報を集積します。	<p>○総務省所管の「障害者のICTを活用した社会参加」や「デジタル活用共生社会実現会議」など、精神疾患のある方等の雇用促進に関するものや、「次世代ヘルスケア産業協議会」の情報をホームページに掲載しました。                      また、尿意を感じる事が困難な為に外出をためらっていた方に対して、排尿予知センサーを用いて、膀胱にたまった尿の量を感知し、トイレに行くタイミングをお知らせする製品等の情報を提供するなどによって、外出支援につながる取組を実施しました。</p>	4	<p>【達成状況】の選択区分                      1. 目標を大きく上回って達成                      2. 目標を上回って達成                      3. ほぼ目標どおり                      4. 目標を下回った                      5. 目標を大きく下回った</p>
13-③	ヘルスケア産業の健康寿命延伸に向けた効果の発信	健康寿命延伸につながる、様々な民間企業主体のヘルスケア産業の効果を、ライフスタイルに応じた様々なテーマを設けながら市民向けに発信します。	<p>○ウェルフェアイノベーションフォーラムにおいて、かわさき基準認証福祉製品の中で、外出支援を促し、健康寿命延伸につながる、デザイン性の高い車椅子について情報発信しました。                      また、障害者が斬新で優れた車椅子に乗ってカワサキハロウィンパレードで健常者と同じルートを行進することで、障害者の新たなライフスタイルの創造と発信を行いました。</p>	3	

行動計画14 新たな「ワークスタイル」構築に向けた製品・サービス活用による価値の発信

概要		評価	達成状況	選択区分の説明	
<p>超高齢社会において親等の介護による離職が社会的な課題となっている中で、働く上で何らかの障害のある状態にある方に対して、その状態を解消する製品・サービスの活用を通じて、働きやすい職場づくりを広く社会全体に促し、働く意欲を実現できる社会を目指していきます。</p>		<p>革新的な福祉製品・サービスを活用して、高齢者や障害者等の就労促進を図り、親等の介護による離職の解消につなげる取組を行いました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分 A. 目標を上回って達成した B. 目標を達成した C. 目標を下回った D. 目標を大きく下回った</p>	
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和2年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
14-①	<p>高齢者・障害者就労などの働き方のモデル構築に向けた取組実施</p>	<p>これまでの就労支援事業と連動して、かわさき基準認証製品などの活用やICT・農業分野との連携などにより、希望した働き方に近づくことができるワークスタイルの構築に向けて、製品・サービスの活用の取組を進め、その効果を発信します。</p>	<p>○かわさき基準認証福祉製品等の活用による障害者の就労や、就労につながる社会参加への取組事例について、ウェルフェアイノベーションフォーラムなどを通じて発信しました。 ○移乗支援のパワーアシストを行う装着型の製品であるかわさき基準認証福祉製品を農業技術支援センターで、野菜の収穫等の業務で試行的に活用するとともに、市内農家へその製品を貸し出し、これらの活用事例を情報発信しました。 ○掃除機能を付加した車椅子を活用し、車椅子インフルエンサーがAIRBICのフロアを清掃するPR動画を作製し、新たなワークスタイルを情報発信しました。</p>	3	<p>【達成状況】の選択区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った</p>
14-②	<p>子育てや介護を行う状況にある方の働き方のモデル構築に向けた取組実施</p>	<p>働くことを継続する意欲がありながら、子育てや介護による離職を防止するため、働き方のモデル構築に向けた製品・サービスの情報を集積するとともに、それらの活用の取組を進め、その実例などを発信します。</p>	<p>○福祉製品の活用による業務改善などの取組事例を、ウェルフェアイノベーションフォーラムやKISのパンフレットにおいて情報発信しました。</p>	4	

行動計画15 ウェルフェアイノベーション川崎モデルの海外への展開の推進

概要			評価	達成状況	選択区分の説明
<p>高齢化の進展が世界で最も早い我が国の状況を踏まえ、新たなライフスタイル・ワークスタイルの創出など社会モデルを創造する製品・サービスを、今後高齢化が進展していく諸外国にリーディングケースとして紹介することにより、マーケット拡大に向けた支援を推進していきます。</p>			<p>革新的な福祉製品・サービスを開発した企業が、海外展開していくために、川崎市海外ビジネス支援センター（KOBIS（川崎市産業振興財団））と連携し、海外のマーケット等について情報提供するなど支援を行いました。</p>	B	<p>【達成状況】の選択区分                      A. 目標を上回って達成した                      B. 目標を達成した                      C. 目標を下回った                      D. 目標を大きく下回った</p>
計画番号	取組	今後5年間の取組内容	平成29～令和2年度の取組結果	達成状況	選択区分の説明
15-①	海外マーケットの分析と中小企業向けへの情報発信	川崎市産業振興財団やジェトロなどの関係機関との連携により、福祉課題を抱える諸外国の状況を分析・情報を整理し、その内容を市内中小企業向けに発信します。	○福祉製品・サービスの創出等を目的としたかわさき基準認証事業者と市内中小企業等とのマッチングセミナーにおいて、川崎市海外ビジネス支援センター（KOBIS（川崎市産業振興財団））と連携して、情報発信等を行いました。	3	<p>【達成状況】の選択区分                      1. 目標を大きく上回って達成                      2. 目標を上回って達成                      3. ほぼ目標どおり                      4. 目標を下回った                      5. 目標を大きく下回った</p>
15-②	海外マーケット拡大に向けたPR	アジア等のマーケット拡大が見込めるエリアを特定した上で、集中的なPR事業を実施し、その効果を見極めながらさらなる展開を推進していきます。関係機関との連携により、企業の紹介や現地視察等をコーディネートします。	○福祉製品・サービスの創出等を目的としたかわさき基準認証事業者と市内中小企業等とのマッチングセミナーにおいて、川崎市海外ビジネス支援センター（KOBIS（川崎市産業振興財団））と連携して、企業の紹介等をコーディネートしました。	3	
15-③	海外マーケットとの情報交流による施策の充実	ヨーロッパやアジア諸国等との情報交流を通じて相互の施策の充実に向けた取組を推進します。	○本市等に来日した台湾の団体と相互の施策の充実に向けた情報交換を行いました。また、海外への進出を目指している企業に対し、米国での展示会の出展経費を支援しました。	3	